

清新公民館振興計画



平成17年3月（策定）

平成20年3月（活動計画改定）

平成23年3月（重点目標改定）

平成27年3月（活動計画改定）

平成31年3月（活動計画改定）

令和 6年3月（活動計画改定）

相模原市立清新公民館

1 はじめに

清新公民館は、昭和33年に組織公民館として開設され、清新小学校の講堂（地域住民の寄付により建設された）の一角に事務局が置かれました。清新小学校の開校から間もないこともあり、「おらが公民館」という雰囲気があり、文字通り住民主体の事業運営がなされていました。

昭和57年、現在の公民館が建設されてからも、学習・文化・スポーツ等の活動の場として、地域のコミュニティー施設として、活発な活動が展開されてきました。

しかしながら、社会情勢の変化や人々の生活スタイル・考え方の変化もあり、公民館運営についても根本的に見直す必要が生じてまいりました。特に、高齢化社会の到来・核家族化の進展、地域社会の連帯感の希薄化が見られる反面、生涯にわたる学習意欲の増大に対する対応等を考慮した公民館運営を図ることが求められています。

そのため、公民館を取り巻く現状の分析と事業結果の検証を実施し、これまで地域社会に果たしてきました役割を、より充実させるとともに、社会情勢の変化に柔軟に対応できる組織づくり、事業展開を図るために振興計画を策定するものです。

2 清新公民館区の特徴

（1）地勢的特色

清新公民館区は、本市の北西に位置し、最寄駅はJR相模原駅及び南橋本駅の2駅です。また、国道16号線が公民館区のほぼ中央を走り、交通の便に恵まれた地域です。

都市基盤の整備については、戦前の軍都計画により、区画整理事業が既に実施され、整然と区画された市街地が広がっています。その他公共下水道、小中学校、ふれあい広場等の公共施設も整備され、充実した住環境となっています。

また、その他の社会資源としては、高齢者福祉施設、デイサービスセンター、障害者福祉施設関連の事業所も本公民館区内で運営を行っています。

その他の特色としては、マンション建設が続き、世帯形成層を中心とした社会増が続いており、少子高齢化社会が進む中で、子どもの数が多いことが特徴となっています。

また、商業面では、相模原駅周辺の商業地が相模大野、古淵、橋本と並ぶ4大商業地の一つを形成しています。

（2）本公民館を取り巻く課題

清新公民館振興計画策定小委員会（以下「小委員会」という。）では、地域的課題を明らかにするため500件を超えるアンケート調査を行うとともに、それをもとに話し合いを重ね、次のような本公民館区の課題を抽出しました。

- ア 近隣や地域住民との意思疎通が図りにくい傾向がある。
- イ 子どもの安全の確保と青少年を健全に育成する必要がある。
- ウ 高齢化社会に向けた地域福祉社会を構築する必要がある。
- エ 子育て期、定年後又は、子育て終了後等の人生のライフステージにあった事業の展開をする必要がある。
- オ 公民館事業への青少年及び成人男性の参加が少ない。

上記アからオを本公民館の課題として抽出しましたが、話し合いを重ねるうちに、これらの中に、もっと基本的な課題があることに気づきました。その基本的な課題とは、「本公民館区において、人と人との関係が希薄になる、そんな生活形態が進んでいるのではないか。」ということでした。

つまり、ほんの数十年前にあった「農家の共同の仕事」や「地域での共同作業」がほとんどなくなり、そういった作業をしなくても生活していけるようになりました。

また、全体の満足よりも、個人の満足を指向する風潮が進み、人と人との関わりを煩わしいとか、面倒くさいと感じる気持ちが、地域の共同作業の減少とともに「地域の人と人との関わりを弱くしているのではないか。」という結論に達しました。

(3) 今後の公民館の役割

本公民館区では、「人と人との関係が希薄になる、そんな生活形態が進んでおり、これを少しでも改善したい。」ということを経典的な視点とし、その結果、今後の公民館の役割は、次の2点に集約されるのではないかと考えました。

○ 公民館事業、サークル活動等（自治会活動、地域福祉活動、子ども会活動、ボランティア活動等）をきっかけとし、人と人が相互に交流し、信頼を深める取り組みを促進する必要があります。

○ 地域での活動を促進するために、情報提供を充実する必要があります。

こういった取り組みにより、地域における人と人の信頼を更に深め、人と人との関わりが「楽しい」、「嬉しい」、「気持ちいい」というキーワードで表せるような関係に近づけるよう本公民館振興計画を策定しました。

3 清新公民館振興計画について

(1) 基本理念

清新公民館は、社会の変化に対応した多様な学習機会を設け、地域住民の生涯学習を支援するとともに、地域に住む一人ひとりが互いに信頼しあいながら暮らせるよう地域づくりを進めます。

スローガン 明るいいさつ 元氣な笑顔 好きですこの町 清新

(2) 重点目標

ア 住民主体の事業推進

多様化するライフスタイルに対応し、誰もが楽しく参加できる事業を、地域住民がそれぞれ得意の分野において、主体的に実施できる体制を目指します。

イ 高齢者の事業

高齢者が、円熟してはつらつとした日々を送るため、意欲的に学ぶことができるよう事業の充実を図ります。

ウ 地域づくりの促進

地域の人材が集い、それぞれが自分にあった活躍の場を発見しながら、住む人が互いに信頼しあって、いきいきと日々を暮らせるよう地域づくりを促進します。

エ 青少年の健全育成

未来を背負う青少年が、地域に根ざしのびのびと、健やかに暮らせるよう地域ぐるみで青少年を育成します。

オ 情報提供

地域住民が、公民館事業等を通じ、自分にあった生活をおくるため、主体的に学習し、多くの人と交流できるよう多様な情報を提供します。

(3) 活動計画

ア 住民主体の事業推進

- (1) 公民館を利用する多数のサークル等と協働し、それぞれの得意分野において、地域住民の学習要望に細やかに対応できるよう住民自らの手による事業運営を目指します。
- (2) 子育て経験の少ない母親の孤立感や不安を和らげられるよう地域ぐるみで子育てを支援します。
- (3) 定年後あるいは、子育てに一段落した人など、今まで地域の活動に疎遠だった人が、自然な形で地域になじめるよう中高年向けの事業を充実します。
- (4) 公民館事業への青少年や成人男性の事業参加を促進します。
- (5) SDGs 活動の推進等、地域の諸団体と連携した事業を実施します。
- (6) 身近なスポーツを通じて親子、家族などが一緒に参加できる事業を促進します。
- (7) 公民館事業への20代、30代を中心とした若い世代の参加を促進し、次代における地域活動の担い手づくりを進めます。

イ 高齢者の事業

- (1) 高齢者の学習意欲を高めるよう事業を充実します。
- (2) 高齢者と青少年が一緒に楽しめる事業を充実し、世代間交流を促進します。
- (3) 高齢者が参加しやすい事業環境を醸成します。
- (4) 高齢者の生きがいづくりの推進につながるような事業の充実に努めます。
- (5) 高齢者の体力づくり、健康づくりのため気軽にできる運動の推進に努めます。
- (6) 高齢者のデジタル活用支援に繋がる情報を発信していきます。

ウ 地域づくりの促進

- (1) 公民館の活動サークルや個人の特技を通じ、地域の人が互いに学びあう場を設け、新しい出会いと交流を図ります。
- (2) 身近な生活場面から、地域の交流の輪を広げ、お互いの信頼を築けるよう「あいさつ運動」を展開します。
- (3) 地域に埋もれている人材の発掘に努力し、その人たちに、地域で活躍する場所・機会を提供します。
- (4) 災害に強い地域づくりを推進するための場・機会を提供します。

- (5) 後世に残したい様々な体験等を地域で共有する機会の充実を図ります。
- (6) スポーツ大会等の地域に根ざしたスポーツ事業を通じて、健康づくりや地域の交流の機会を提供します。
- (7) 地域団体やボランティア団体がそれぞれの特性を生かした多様な地域づくりを促進します。

エ 青少年の健全育成

- (1) 青少年が地域の人とふれあいながら多様な体験を通し、健やかに育つよう事業の充実を図ります。
- (2) 小中学校や子どもセンター、地域の青少年関係団体（地区青少年健全育成協議会、地区こども会育成連絡協議会等）と協力し、青少年事業を推進します。
- (3) 地区こども会育成連絡協議会の協力のもと、公民館事業におけるジュニア・リーダーの活躍の場を広げます。
- (4) 子ども達が安心して過ごすことができる「子どもの居場所」確保のための事業や活動を推進します。

オ 情報提供

- (1) 誰もが楽しみながら気楽に参加できるよう館報・公民館ホームページ等を通じ、情報提供を行います。
- (2) 自治会の協力を仰ぎ、掲示板を活用することにより、情報提供を行います。
- (3) より親しみを持ってもらおう広報をめざし、地域活動や地域の身近な話題の情報提供に努めるとともに、公民館情報を必要とする人に届くよう様々な広報手段の工夫を図ります。

4 推進体制

(1) 公民館と地域住民との共催事業の推進

本振興計画の理念において、本公民館では、「生涯学習と地域づくりを中心に運営していくこと」を目標としました。

そうした中で、地域づくりには、地域住民相互の信頼関係を作ることが重要であることから、本公民館では、そういった機会を今まで以上に設定する必要があります。

しかし、新たな課題に取り組みながら、参加者の志向にあった講座や教室の開設や継続的な学習機会を設けることは、現行の運営体制では難しい状況にあります。

そこで、サークル及び地域の特技の持主等が、それぞれの得意とする内容を公民館と共催で事業化することにより、きめ細やかで多様な学習と出会いの場を提供することを提案します。

このような共催事業を行うことにより、地域の人材の幅広い活躍の場を提供し、あわせて、相互の交流を深め、地域住民の信頼関係の構築が期待できます。

(2) 今後の事業評価

本振興計画の策定は、地域住民の主体的な話し合いに基き、策定作業が進められました。策定委員は、アンケート調査、課題の抽出、理念策定と作業をしていく中で多くの発見や共感を得ることができ、多くの意見を本振興計画に反映しました。

こうした住民の方々の主体的な取り組みは、振興計画の策定作業にばかりでなく、本振興計画の進行管理する上でも重要な点であることから、住民の主体的な参加によって、事業を評価する機会を設ける必要があります。

5 今後の課題

清新公民館を取り巻く課題でも述べたように、「本公民館区において人と人との関係が希薄になる、そんな生活形態が進んでいるのではないか」ということを、基本的な課題として挙げました。このことは、他人に対する無関心を助長し、住民の意思疎通や地域福祉活動、青少年の健全育成に係る多くの課題に関連しているように思えます。

こうした中、学びを通し地域づくりを進めることを目標とする本公民館にとって、公民館事業に参加してもらうための情報をいかに地域に伝えるかが公民館の活動上、重要な課題であると考えています。

このため、公民館のホームページやSNSでの情報提供といったデジタル的な手法だけではなく、色々な場所でのポスター掲示やチラシの配架といった従来からあるアナログ的な方法の活用等、様々な手段により公民館の情報を伝えていく必要があります。